

■ 本文

【一】主従二騎となった義仲と兼平

今井四郎、木曾殿、ただ主従二騎になつて、のたまひけるは、「日ごろは何とも覚えぬ鎧が、今日は重うなつたるぞや〔①〕。」今井四郎申しけるは、「御身もいまだ疲れさせたまはず〔②〕。御馬も弱り候はず。何によつてか、一領の御着背長（おんきせなが）を重うはおぼしめし候ふべき。それは御方（みかた）に御勢（おんせい）が候はねば、臆病でこそさはおぼしめし候へ。兼平一人候ふとも、余の武者千騎とおぼしめせ〔③〕。矢七つ八つ候へば、しばらく防ぎ矢仕らん。あれに見え候ふ、粟津（あはづ）の松原と申す。あの松の中で御自害候へ。」とて、打つて行くほどに……

【二】義仲、粟津の松原に深入りして討たる

木曾殿はただ一騎、粟津の松原へ駆けたまふが、正月二十一日、入相（いりあひ）ばかりのことなるに、薄氷（うすごほり）は張つたりけり、深田（ふかた）ありとも知らずして、馬をぎつと打ち入れたれば、馬の頭（かしら）も見えざりけり。あふれどもあふれども、打てども打てども働かず〔④〕。今井が行方（ゆくへ）のおぼつかなさに、振り仰ぎたまへる内甲（うちかぶと）を、三浦の石田次郎為久（いしだのじろうためひさ）、よつ引いてひやうふつと射る。痛手なれば、真つ向（まつかう）を馬の頭に当ててうつぶしたまへる〔⑤〕ところに、石田が郎等（らうどう）二人落ち合うて、ついに木曾殿の首をば取つてんげり。

【三】兼平、主君の死を聞いて壮絶な自害を遂げる

今井四郎、いくさしけるが、これを聞き、「今は誰をかばはんとてか、いくさをもすべき〔⑥〕。これを見たまへ、東国（とうごく）の殿ばら、日本一（につぼんいち）の剛（かう）の者の自害する手本〔⑦〕。」とて、太刀の先を口に含み、馬よりさかさまに飛び落ち、貫かつてぞ失せにける。さてこそ粟津のいくさはなかりけれ。

■ 設問（全22問）

- 【一】の会話で、義仲の動作には「のたまひける」、兼平の動作には「申しける」という語が使い分けられている。それぞれの敬語の種類（尊敬・謙譲）を答え、なぜこのように使い分けられているのかを、二人の身分の上下に触れて説明しなさい。
- 【一】の傍線を引いていない部分「のたまひけるは」「今井四郎申しけるは」について、それぞれ話している（言っている）のは誰か。義仲・兼平のいずれかで答えなさい。
- 傍線部①「日ごろは何とも覚えぬ鎧が、今日は重うなつたるぞや」を現代語訳しなさい。また、この言葉に表れた義仲の心情を簡潔に説明しなさい。
- 傍線部②「御身もいまだ疲れさせたまはず」について、用いられている敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）と、誰から誰への敬意かを答えなさい。また「させ」「たまは」の文法的説明をしなさい。

5. 【一】の「御着背長（おんきせなが）」「御方」「御勢」に共通してつく「御（おん・み）」は何を表す語か。その働きを答えなさい。また「御着背長」とはここでは何を指すか答えなさい。
6. 【一】「臆病でこそさはおぼしめし候へ」には係り結びが用いられている。(ア)結びの語にあたる「候へ」は活用形のうち何形か。(イ)この係り結びをつくっている係助詞を抜き出さなさい。
7. 傍線部③「兼平一人候ふとも、余の武者千騎とおぼしめせ」を現代語訳しなさい。この発言から読み取れる兼平の人物像を説明しなさい。
8. 【一】「矢七つ八つ候へば、しばらく防ぎ矢仕らん」を現代語訳しなさい。「仕らん」の「仕る」がどのような敬語かもあわせて答えなさい。
9. 【二】の「駆けたまふ」「振り仰ぎたまへる」の動作の主語は、それぞれ誰か。本文中の人物の名で答えなさい。また「たまふ・たまへ」はどのような敬語か答えなさい。
10. 【二】「正月二十一日、入相（いりあひ）ばかりのことなるに」の「入相ばかり」とは、一日のうちのおよそどの時間帯を指すか答えなさい。
11. 傍線部④「あふれどもあふれども、打てども打てども働かず」とは、何がどうなった様子を述べたものか。主語を明らかにして説明しなさい。
12. 傍線部⑤「うつぶしたまへる」の動作の主語は誰か。本文中の人物の名で答えなさい。(義仲と兼平を取り違えないこと)
13. 【二】の末尾「首をば取つてんげり」について、「てんげり」に含まれる完了(強意)の助動詞を答えなさい。また、この一文全体を現代語訳しなさい。
14. 傍線部⑥「今は誰をかばはんとてか、いくさをもすべき」を現代語訳しなさい。この一文から読み取れる、兼平が戦いをやめた理由を説明しなさい。
15. 傍線部⑦「日本一の剛の者の自害する手本」と言って兼平が示した「手本」とは、具体的にどのような行動か。本文に即して説明しなさい。
16. 【三】「貫かつてぞ失せにける」と「さてこそ粟津のいくさはなかりけれ」には、それぞれ係り結びがある。係助詞と結びの語を、二つの文それぞれについて抜き出さなさい。
17. 【文学史】『平家物語』について、(ア)成立した時代区分(ジャンル)を漢字四字または五字で答えなさい。(イ)全編を貫く仏教的な無常観を表す、冒頭「祇園精舎の鐘の声」で始まる思想を漢字で答えなさい。(ウ)この物語を琵琶を弾きながら語り広めた、目の不自由な芸能者を何と呼ぶか答えなさい。
18. 【一】に三度出てくる「おぼしめし(おぼしめせ)」は、ある動詞の尊敬語である。(ア)もとになる動詞(基本形)を答えなさい。(イ)現代語訳しなさい。
19. 【二】で、義仲が馬を深田に乗り入れてしまったのはなぜか。「薄水は張つたりけり」「深田ありとも知らずして」の二点をふまえ、その状況を説明しなさい。
20. この場面全体をふまえ、義仲と兼平の関係(主従の絆)が、二人のそれぞれの最期にどのように表れているか。【一】の兼平の進言と【三】の兼平の自害を関連づけて、八十字程度で説明しなさい。
21. 【文学史】次の問いに答えなさい。(ア)『平家物語』のように、合戦・武士の活躍や滅亡をえがいた物語のジャンルを何というか。(イ)『平家物語』の冒頭にある「盛者必衰(じょうしゃひつすい)」とは、どのような道理を述べた言葉か、簡潔に説明しなさい。
22. 【文学史】『平家物語』と同じく鎌倉時代に成立した作品を、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 徒然草 イ 方丈記 ウ 源氏物語 エ 枕草子